網走信用金庫
地域情報誌
ご自由にお持ち帰りください

地域の扉

2020
9月
Vol.19

帯広と豚丼

～十勝のソウルフード～

帯広に行くと食べたくなるのが「豚丼」。帯広市内には豚丼店が多く軒を連ねており、観光資源の一つにもなっています。今回は、そんな十勝の方になじみ深い豚丼のルーツと、十勝の豚肉の特徴について、紐解いていきたいと思います。

豚丼の歴史

帯広と言えば豚丼！という方も多いと思います。地元の方にはなじみ深く、十勝の郷土料理の一つに数えられます。今や全国的に有名になりつつあり、観光や出張で帯広を訪ねる方は、必ず一度は食べて帰るとも言われています。

帯広の養豚は、開拓者依田勉三が豚４頭を連れて入植したことが始まりです。大正末期に豚肉料理が一般的になりつつありましたが、当時庶民が食べられる料理は少なく、貴重でした。初めて豚丼が登場したのは１９３３年。庶民にも食べられる料理として、うな丼をヒントにしたしょうゆベースの甘辛いタレを絡めて焼いた豚丼を作り始めたことがきっかけと言われています。

十勝の豚肉

十勝の豚肉は、生産者それぞれが飼い方などを工夫した、こだわりの逸品です。じゃがいもを豊富に食べ清流の水を飲んで育った豚、チーズの生成段階に発生するホエー（乳清）を与えて育てた豚、大自然の中で放し飼いで育てた豚など、その育て方は様々です。帯広の豚丼はジューシーな旨味と上質で深い甘み、さらりとした口溶けといった、十勝産豚肉の魅力を最大限に活かした逸品です。

ぶたどんまん

「ぶたどんまん」は、十勝の郷土料理「豚丼」の精霊です。十勝管内のイベント会場に現れ、帯広の魅力をＰＲしています！

豚丼に関連するお土産

豚丼に関わるお土産をご紹介します。一風変わったものもあるかも？

豚丼のタレ

しょうゆベースの甘辛いタレです。もちろん豚丼だけでなく、豚肉料理を作るときにも使えます！

ぶた丼おかき

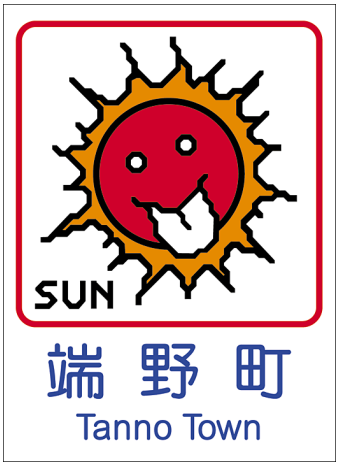
豚丼をイメージして作られたおかきです。サクサクとした食感に甘辛さとほんのり豚丼の風味が広がります。

豚丼チョコ

豚丼をイメージして作られたチョコレートです。見た目はチョコレートながら、どこか豚丼の風味も感じる不思議な味がします。

地元のカントリーサイン VoL.2

今回は北見市のカントリーサインを4つの地区ごとにご紹介します。



北見市端野町

端野町は日照時間が長いといった理由から、太陽のキャラクターが描かれています。端野地区をあげての祭りである「太陽まつり」のポスター等でも、このキャラクターが使われます。

北見市

北見市は玉ねぎの生産量、出荷量共に日本一を誇ります。またラグビーが盛んな地区でもあることから、玉ねぎのキャラクターがラグビーをしている姿が描かれています。

北見市留辺蘂町

留辺蘂町といえば温根湯温泉。付近にあるつつじ山には約7万株、28万本ものエゾムラサキツツジが咲き誇り、旧留辺蘂町の町花にも指定されていました。カントリーサインにはエゾムラサキツツジとともに、キタキツネが温泉に入っている様子が描かれています。

北見市常呂町

常呂町は「ホタテ養殖発祥の地」であり、有数の水揚げ量を誇っています。また、カーリングが盛んであることでも知られ、オリンピックで活躍する選手を輩出していることでも有名です。このことにちなみ、ホタテのキャラクターがカーリングをしている姿が描かれています。

北見市では、市の入口に大きく北見市のカントリーサインが掲げられてあり、その下に各地区のカントリーサインが添えられています。

編集後記

本号は前号に続き、新型コロナウイルスの影響を考え、地域の歴史や文化に焦点を当てた企画を多く盛り込んでいます。夏のイベントが軒並み中止となり、寂しい夏を過ごされた方も多いと思います。また、夏が過ぎてもウイルスの流行が終息せず落ち着かない、疲れがたまっている、といった方も多いかと思います。定期的に各自でできる息抜きを挟むことで、なんとかコロナ禍を乗り越えたいところです。

地域の扉は次回、記念すべき第20号となります。少しでも明るい話題をお届けできるよう企画を検討中ですので、ご期待ください！

■2020年9月1日発行　■編集・発行/網走信用金庫　地域振興支援部　〒093-0005　網走市南5条東1丁目4番地の1　TEL:0152-67-4128

地域の国道

Vol.2
334号線

地域の国道を紹介していくコーナー。２回目の今回は、羅臼町と美幌町を結ぶ約１２０ｋｍの国道３３４号線をご紹介します。

①羅臼町の起点

国道３３４号線は、羅臼町本町にある交差点が起点です。ここは、羅臼町と標津町を結ぶ国道３３５号線の起点でもあります。冬期間は知床横断道路の区間が閉鎖されるため、３３５号線が羅臼町に向かう唯一の道路となります。

②知床横断道路

羅臼町市街地を出ると、知床世界自然遺産地域内の通称「知床横断道路」と呼ばれる区間を通ります。この区間は１９７５年、３３４号線の中で最初に国道に指定された区間です。最高地点の知床峠は、オホーツク海や北方領土の国後島が望めるスポットになっています。

知床横断道路は11月から4月まで閉鎖されます。これは道中、急カーブと急勾配が多いことに加えて、天候が変わりやすく積雪や路面凍結が多いこと等が理由です。閉鎖期間が約6ヶ月にも及ぶため、３３４号線は日本一「全区間開通している期間が短い国道」として知られています。

③天に続く道

知床横断道路を抜けるとウトロ地区を通過し、斜里町市街地へ向かいます。途中オホーツク海の海岸沿を通過するため、冬になると流氷を間近に見ることができます。また、知床八景にも選ばれているオシンコシンの滝の側も通ります。

斜里町市街地では、網走市と根室市を結ぶ国道２４４号線と一部区間重複します。この２４４号線の斜里町大栄から３３４号線の斜里町朱円の１５．８ｋｍは、全道で2番目に直線区間の長い国道です。また、朱円側の道道を含み「天に続く道」と呼ばれています。

④旧美斜線

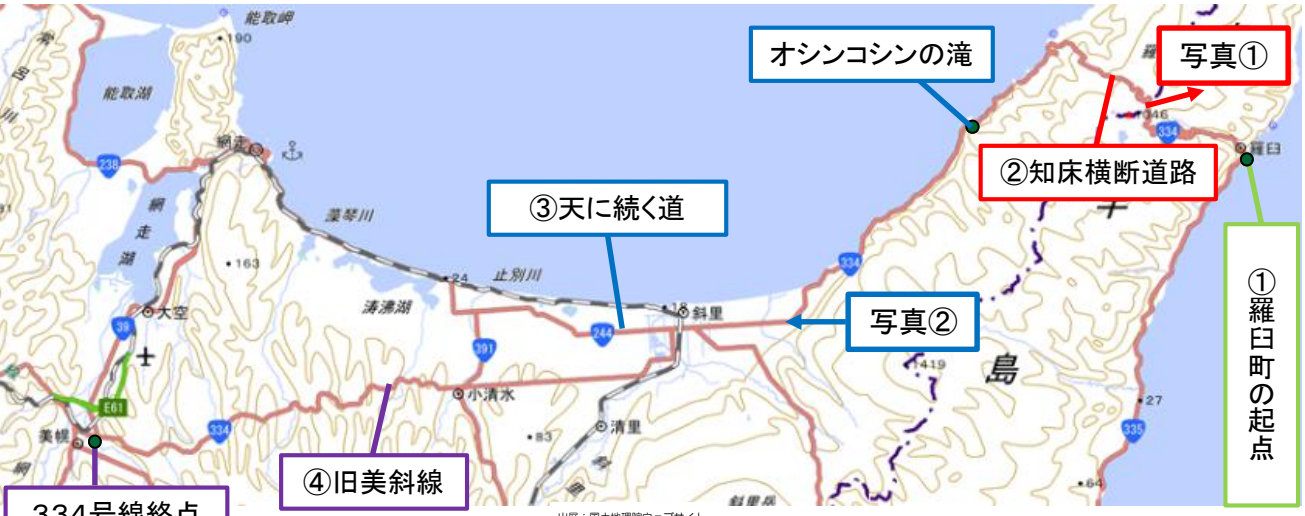
斜里町から美幌町までの区間はもともと道道であり、１９９３年に国道に指定されました。道道時代は「美」幌と「斜」里を結ぶ「美斜線」と名付けられたため、現在もその名残から地元の方は美斜線と呼んでいます。

道中、小清水町市街地、大空町東藻琴市街地を経由して、美幌町へ向かいます。東藻琴から美幌町の間は田園風景がひたすら続く、北海道らしい景色が楽しめます。

美幌町報徳の国道３９号線に直結する交差点が終点になっています。

写真①　知床峠から見た北方領土

写真②　朱円側から見た天に続く道



出展：国土地理院ウェブサイト
https://maps.gsi.go.jp/

特集　地域の木材

オホーツク管内には豊かな森林資源があり、林業や木材産業が盛んです。特に、トドマツやカラマツといった木が人工林として多く植えられています。今回はオホーツク地域の木の種類や木材の特徴、使用例をご紹介します。

①木の種類

トドマツ

カラマツ

カラマツ

カラマツは、日本に自生する針葉樹高木の中で、唯一の落葉樹です。このため、「落葉松」と書いてカラマツと読むこともあります。

樹木が育つためには土質の三要素(リン、カリウム、窒素)が必要ですが、カラマツは様々な土質で、寒冷で降雪の多い環境でも育ちます。材質は強度が高く腐りにくい特徴があります。

トドマツ

トドマツは、日本で唯一北海道でのみ分布する針葉樹です。本州で自生するモミによく似ていて、北海道ではクリスマスツリーの木としてお馴染みです。また、果実は独特な形状をしており、一般的には「まつぼっくり」と呼ばれ親しまれています。

材質は非常に軽く、手で触るとほんのり温もりが感じられるという特徴があります。

	カラマツ	トドマツ
伐採の適期	約30年	約60年
木地の色	芯部が赤みを帯びる	白っぽい
原産地	長野県	北海道

②使用例

カールチップ

流氷街道網走
オホーツク産カラマツが使われています

農業

農業や畜産分野でも多くの木材が使われています。木の牛舎は牛だけでなく、作業する人間にとっても快適となります。

また、おが粉、カールチップといった敷料としても広く利用されています。特徴としては、アンモニアなどに対し耐久力があること、悪臭やハエの発生が少なく家畜のストレスが軽減されること、おが粉やカールチップは繰り返し使うことができるといったものがあります。

住宅・公共施設

本州では住宅の材木として、スギやヒノキがよく使われますが、当地区の住宅ではトドマツが主流で、最近ではカラマツでも作られており、また公共施設に使われている例もあります。

木造住宅・施設は耐久性に優れている他、湿度の調整や紫外線の吸収などの効果があり、住む人にとって心地よい環境を与えてくれます。